

年 組 名前:

問1

記事の調査は、だれが、だれに対して行いましたか。

・だれが

.....

・だれに対して

.....

問2

「1人1台端末の活用頻度」で、前回の調査より増加した回答を教えてください。

.....

問3

調査結果において、およそ4人に1人が課題に挙げたことを教えてください。

.....

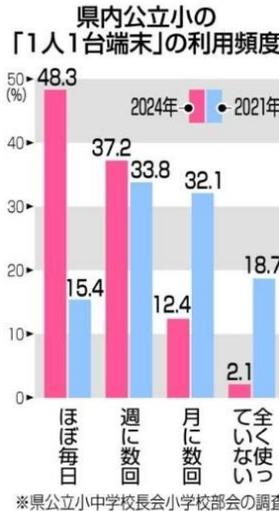
問4

あなたは、「1人1台端末」を、どのように活用すれば良いと思いますか。

.....

端末活用「ほぼ毎日」5割

県内公立小授業 21年調査の3倍



※県公立小中学校長会小学校部会の調査

山梨県内の公立小学校の学級担任を対象に、県公立小中学校長会の小学校部会が授業での1人1台端末の活用頻度を調べたところ、「ほぼ毎日」と答えた割合は約5割で、2021年調査から3倍以上に増えた。週に数回も含めた割合は8割超で、調べ学習や児童間の意見の共有などで活用していた。一方、およそ4人に1人の担任が「児童の書く力や想像力の低下」を課題に挙げた。部会では紙を使った学習の活用頻度は「ほぼ毎日」が48.3%、「週に数回」が37.2%、「月に数回」が12.4%、「全く使っていない」が2.1%だった。週に数回以上

授業での活用頻度は「ほぼ毎日」が48.3%、「週に数回」が37.2%、「月に数回」が12.4%、「全く使っていない」が2.1%だった。週に数回以上

「授業での活用が定着している」と総括。活用頻度を尋ねた時期が1学期だったため、月に数回以下と答えた教諭については「入学したの1年生の担任が多い」と推測。2学期以降に活用頻度が増える」とみている。

端末活用における課題に関する設問（三つ以内で回答）では、24.2%の担任が「児童の書く力・想像力の低下」を挙げた。校長（回答数153人）を対象とした設問（三つ以内で回答）でも、14.4%が同様の回答をした。部会では「端末の活用頻度が増えることに伴い、鉛筆でノートに書く作業が減ることへの不安感の表れではないか」と分析。要因が端末の活用にあるのか見極めつつ、ノートなどを使った「書く学習」との適切な融合について検討する方針。

求める支援について、学級担任を対象にした設問では「ICT支援員の配置」が最も多く、60.0%。次いで「活用例・授業事例など」が58.4%、「活用に関する研究や研修」が47.6%などと続いた。端末活用時は担任が1人で環境設定して計画を立てて指導をすることが多いといいい、「実質的な支援を必要としている」とした。調査結果は各校に配布し、今後の授業運営に生かしてもらう方針。

書く力、想像力低下が課題

「授業での活用が定着している」と総括。活用頻度を尋ねた時期が1学期だったため、月に数回以下と答えた教諭については「入学したの1年生の担任が多い」と推測。2学期以降に活用頻度が増える」とみている。

端末活用における課題に関する設問（三つ以内で回答）では、24.2%の担任が「児童の書く力・想像力の低下」を挙げた。校長（回答数153人）を対象とした設問（三つ以内で回答）でも、14.4%が同様の回答をした。部会では「端末の活用頻度が増えることに伴い、鉛筆でノートに書く作業が減ることへの不安感の表れではないか」と分析。要因が端末の活用にあるのか見極めつつ、ノートなどを使った「書く学習」との適切な融合について検討する方針。

求める支援について、学級担任を対象にした設問では「ICT支援員の配置」が最も多く、60.0%。次いで「活用例・授業事例など」が58.4%、「活用に関する研究や研修」が47.6%などと続いた。端末活用時は担任が1人で環境設定して計画を立てて指導をすることが多いといいい、「実質的な支援を必要としている」とした。調査結果は各校に配布し、今後の授業運営に生かしてもらう方針。

(2025年1月20日付 山梨日日新聞1面)